

令和2年度第2回庄原市学校・警察連絡協議会

開催日：令和2年12月9日（水） 開催場所：庄原市田園文化センター多目的ホール

参加者：庄原警察署，北部子ども家庭センター，庄原警察署管内少年補導協働員連絡協議会，庄原市主任児童委員，庄原市内県立高等学校，庄原特別支援学校，庄原市内小・中学校，広島県教育委員会，庄原市児童福祉課，庄原市教育委員会

【目的】 広域化，低年齢化する児童生徒の問題行動及び不登校等について，学校と警察，関係機関等が情報交換を行い，組織的な連携を深めることを通して，児童生徒の問題行動及び不登校等の未然防止や早期対応を図る。

【講話】 「少年非行の現状と課題について」 庄原警察署 生活安全刑事課長 佐々木 智徳

○広島県内の非行少年の総数は，昨年度と比較して約10%減少している。刑法犯においては「万引き」が大幅に減少している。広島県内の不良行為少年の総数は，昨年度と比較して約5%減少している。飲酒・深夜徘徊は減少しているが，喫煙や不良交友が増加している。

○庄原市においても特殊詐欺被害（高額当選，パソコン修理名目）が複数発生している。児童生徒を通じて家庭へ注意喚起を行い，特殊詐欺被害の防止を図ってもらいたい。

○生徒指導事案の例を基に，学校が連携すべき関係機関について紹介

- ・暴力行為があった場合 → 状況によっては警察連携
- ・飲酒・喫煙が分かった場合 → 警察連携
- ・虐待の疑いがあった場合 → 児童相談所，警察連携 など



【講話・演習】 「庄原市における生徒指導上の諸課題の現状と課題について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 坂田 雅則

○いじめは一定の人間関係があれば起きにくい状態にある。しかし，互いのルールが崩れ始めたときはいじめの入り口と捉えて，丁寧に話を聞いたり指導を行ったりする必要がある。そこを見逃さないためにも，全教職員の共通認識や情報共有が大切である。いじめ対応の事例を紹介し，対応のどこに問題があったのか演習を行った。

○各校での不登校対応への参考として，小澤美代子氏の研究・実践について紹介した。「タイプ分けチェックリスト」「状態像チェックリスト」「かかわり方チェックリスト」の使い方について，例を挙げながら確認した。

【協議・交流】 （1）いじめの問題に係る取組について

（2）不登校への対応及び不登校の未然防止に係る取組について



【指導・助言】

広島県北部教育事務所 教育指導課 指導主事 須山 雅弘

○令和2年度いじめの問題に関する指導者養成研修における資料を基に，指導・助言をしていただいた。

問題が起こりにくい学校での5+αの共通点は「【ポイント1】情報の質と流れが良好で，課題が共有されている。【ポイント2】指導方針が現状と課題を踏まえている。【ポイント3】取組における具体的な行動が示されている。【ポイント4】一部の教職員のみ負担が偏っていない。【ポイント5】随時，取組を見直し，軌道修正されている。【ポイントα】教職員間での会話が多い。」である。そのための手立てとして，「きらめきカード」や「色別分類シート」等を参考にして，取組の充実を図る。

（事後アンケートより）

- ・不登校のチェックリストは，よりよい援助の仕方を考える上で参考になると思った。不登校への対応について，児童の様子をしっかりと把握しながら，タイプ等の分類をもとに取組を進めていきたい。
- ・警察の方から紹介のあったDVDがとても分かりやすく，生徒にも見せたいと思った。
- ・小・中・高や関係機関と普段から連携を行うとともに，生徒のために何ができるかを学校全体で考え，生徒のよりよい成長につなげていきたい。